

知事定例記者会見

日 時 令和8年2月10日(火) 14:15~14:43

場 所 別館2階 記者会見室

(知事)

それではですね、発表の前に、2点ですね、県民の皆様への呼びかけをさせていただきますと思います。

1点目はですね、節水へのご協力についてでございます。県内では昨年の夏以降、雨の少ない状況が続いております。特に今年に入ってから、まとまった降雨がなく、生活用水や工業用水、農業用水の水源となるダムの貯水率が平年に比べて大きく減少しております。

このため現在、天竜川水系、太田川水系において、渇水対策を行っております。内容は浜松市、磐田市、袋井市、湖西市、森町の上水道、工業用水、農業用水について、10%から20%の取水制限を実施しております。これにより、今後の状況によっては、一部の地域で水が出にくくなるなどの影響が生じる可能性があります、ご理解とご協力をお願いを申し上げます。

また、愛知県の豊川水系では本日より取水制限が強化され、湖西市の工業用水と農業用水について40%の取水制限が実施されております。県では水道事業者等との関係機関と協力をして、この渇水により県民の皆様の生活に大きな支障が生じないように努めておりますが、県民の皆様におかれましても、日頃の節水にお心がけいただき、限りある水資源をいつも以上に大切に使用いただきますようご協力をお願いを申し上げます。1点目は以上でございます。

2点目はですね、インフルエンザの再度の警報入りについてでございます。静岡県内では1月26日から2月1日までの1週間におきまして、インフルエンザの定点医療機関あたりの平均患者数が43.29人となり、警報レベルの30人を超えたため、先週金曜日に警報を発令いたしました。

今シーズンは昨年の11月に警報レベルを超え、年末年始に一旦終息したものの、その後増加が続き、この度の再度の警報入りとなりました。このように一旦終息した後の再度の警報入りは、記録が残る2002年以降で初めてであり、かつ今シーズンのこれまでの最高値である41.26人を超えました。このところ全国的に小雨、乾燥した天気が続いており、今後さらに流行が拡大する恐れもあります。

県民の皆様には感染予防のため、こまめな手洗い、人混みでのマスク着用や、咳エチケットを励行していただくとともに、熱や咳の症状が出た際は、無理に外出をせずに、自宅等で静養していただきますようお願いを申し上げます。呼びかけにつき

ましては以上でございます。

続いて発表項目についてでございます。今日は 2 点でございます。

1 点は、しず Go！で春のお出かけでございます。だんだんと暖かくなり出かけたくなる春先に、県内ではプロスポーツや文化体験など魅力的なイベントが盛りだくさんとなっております。

これらイベントに最大 4 回参加可能な定額制サービス「しず Go！」を昨年 10 月から開始しております。例えば、静岡ブルーレヴズの試合観戦、アクトシティのヤブロンスキーのピアノコンサート、県立美術館、用宗みなと温泉の計 4 つに行きますと、通常 1 万 500 円かかるところでございますが、「しず Go！」を使えば月額 1980 円で参加できます。

春のお出かけの時期に、県民の皆様にも魅力的な体験をたくさん楽しんでいただくため、この「しず Go！」が初回お試しとして、月額 980 円で利用可能なキャンペーンを 3 月末まで実施しております。ぜひ多くの方にこの「しず Go！」をご利用いただき、県内各地のイベントに参加してもらえればというふうに思います。

1 点目は以上でございます。

2 点目は、障害福祉サービス事業所の令和 6 年度県平均工賃月額及び福製品の一人一品運動「ウィンターフェア」についてでございます。障害のある人が住み慣れた地域で生活を送るためには、経済的に自立できることが必要となります。このため、障害福祉サービス事業所で働く障害のある人の工賃の向上は大変重要であり、県では静岡県工賃向上計画を策定し、工賃アップのための様々な施策に取り組んでおります。

その結果、令和 6 年度の県内の障害福祉サービス事業所における平均工賃月額は、前年度より 1783 円増加し、2 万 3496 円となりました。

目標である月額 3 万円を目指して引き続き、障害福祉サービス事業所の製品である福製品の継続的な購入を呼びかける「一人一品運動」や、複数の事業所で共通の製品を製造・販売する共同生産体制の構築に向けたモデル事業などに取り組んでまいります。

取り組みの一環として、福製品の展示販売会である福製品一人一品運動「ウィンターフェア」を 2 月 19 日と 20 日の 2 日間、県庁内で開催し、私も開会式に出席いたします。

販売会では、障害福祉サービス事業所で製造された食品、雑貨品などが多数販売される他、共同生産体制構築のモデル事業で製作した、イタリアの伝統的な焼き菓子バーチディダマの試作品の試食会も行われますので、是非会場にお越しいただきたいと思っております。私から以上でございます。

(幹事社)

ありがとうございました。ただいまの知事の発表について、質問のある社はお願いします。

(記者)

静岡朝日テレビです。よろしくお願いします。冒頭に呼びかけがありました節水についてなんですけれども、こうした状況の知事の受け止めと、また住民に対して呼びかけられていましたが、もし事業所にも何か呼びかけたいことがあれば教えてください。

(知事)

そうですね。例年に比べて非常に降雨が少ないということで、ダムの貯水率も非常に低下しておりますので、しっかり節水の対応していただきまして、水不足に陥らないようにしていきたいというふうに思います。もちろん県民の皆様だけではなくて、事業所等にも節水についてはですね、ぜひご協力いただきたいと思っております。

(幹事社)

その他ありますか？

それでは幹事社から質問させていただきます。衆議院選挙が8日に投開票されまして、自民党が歴史的勝利というような結果になりましたけども、この結果についての受け止めと、今後、高市政権進むと思いますけれども、政権に対する期待をお願いします。

(知事)

正直、びっくりしたというのが率直な感想でありますけれども、非常に争点が見にくい中、高市総理に対する信任投票的な選挙であったと思いますが、なんとなく感ずるのはですね、高市さんを見ていると、今までの永田町的なですね、政治家じゃない感じがしまして、私はそうした点がですね、かなり無党派層に一気に浸透してですね、この歴史的な勝利、大勝につながったのではないかと思っております。そういう意味では、これからが正念場を迎えるのではないかというふうに思います。これから新政権に期待することではありますが、まずはですね、新年度の予算編成等が始まると思いますが、ぜひ国民生活に影響が出ないようにですね、スピード感を持ってしっかり対応していただきたいということと、やっぱり懸念されるのは消費税のですね、2年間、食料品をゼロにするという公約を掲げておりますけ

れども、これは 5 兆円の税収減になりますので、これは地方自治体にも非常に大きな影響が出ますので、代替財源の確保をですね、しっかりしていただきたいということとですね、本当に 2 年間で済むのかなという懸念もあります。これは恒久的にならないようにですね、しっかりそこは制度設計していただきたいと思いますし、2 年間の限定となるとですね、レジ等のシステム改修に、それだけの投資をすることに対して、事業者の皆さんがどういうふうな反応をするかということも、ちょっと気になる場所ですし、いずれにしろ国民会議で、しっかり議論するということでございますので、いろんな影響が出ないようにですね、しっかりとした対応をしていただきたいなというふうに思っております。

(幹事社)

ありがとうございます。ただいまの幹事社質問に関する知事の回答について、質問のある社はお願いします。

(記者)

何度もすみません、朝日テレビです。よろしくお願いします。改めてになりますけれども衆院選で 8 選挙区全てでですね、自民党の候補者が当選しました。これについては、どのように受け止めていらっしゃいますか。

(知事)

そうですね、これ小選挙区が始まって、初めてのことですよね。全部ということは。もう野党候補が比例で 1 人残っただけということで、本当に歴史的な圧勝というかですね、すごいことだなと。私もかつて小選挙区で選挙をやった身からするとですね、すごい結果だなというふうに思いますし、今回かなりですね、静岡だけではなく、これまで不敗を誇っていた旧立憲のですね、ベテラン議員の皆さまがこぞって討ち死にをされてるということを見ますと、本当に何かもう、時代の大きな転換点を感じる選挙だったなというふうに思います。

(記者)

野田さんは当選されましたけれども、鈴木知事の昔の仲間が落選していますけれども、それについては、どのように思われますか。

(知事)

そうですね。やはり非常に残念でございます。今回、本当に野党が惨敗という状況ですけれども、これはあまり僕は自民党にとってもですね、良いことではないなというふうに思います。実はかつて、菅元総理が私にですね、こんなことを言ったん

ですね。「康友君ね、野党があまり弱いと俺ら困るんだよな」って言うんですよ。やっぱりあれは僕は本音だと思うんですね。ですからやっぱり、しっかりとした政権運営をする上で、ある程度ちゃんとした野党がないとですね、なかなか民主的な政権はできないということで、そういう意味では、これからが野党再構築に向けてですね、野党にとっても正念場を迎えるのではないかというふうに思います。

(記者)

ありがとうございます。あと、1点だけちょっと伺いたいんですけど、知事ですね、県内で特定の候補者や政党の応援はしていないということだったんですけども、当選した西村康稔さんの応援に入られたんですが、どういう思いで駆けつけられたのでしょうか。

(知事)

これ直前にですね、西村さんの方から、ぜひ来てほしいという強い要請がございまして、予定を見たらですね、一瞬だけちょっと行ける時間がありましたので、とんぼ返りで行って来たということでもあります。前にもご紹介したと思いますが、私、「康の会」という、西村さんの康稔の「康」が付く人たちで構成する後援会のメンバーでございまして、随分、経産大臣時代を含めて、西村さんにお世話になっておりますので、そうした義理もございまして、今回ですね、わずかな時間ではありますけれども、明石まで行ったということでございます。

(記者)

ありがとうございました。

(幹事社)

その他どうでしょうか。ではそれ以外の質問のある社はお願いします。

(記者)

毎日新聞です。ちょっとそれ以外じゃなくて、ちょっと先ほどの衆院選のことで、もう一度よろしいでしょうか。今回はですね、ネット世論というのがですね、実際の選挙結果に与えた影響は非常に大きい選挙ではなかったかというような、そういう識者の見方もあります。ネット選挙、いわゆるネットを使った選挙がですね、実際の選挙結果に大きな影響を及ぼすという影響に関して、実際ご自身も選挙を戦われている政治家として、どのように思われているのかというのを教えていただいてもいいですか。

(知事)

そうですね、ネットの影響をどういうふうに判断するのかというのは、まだまだこれから分析・評価必要だと思います。今回も与党の候補者の方だけでなく、野党議員の方たちも相当ネットを使われておりました。いろいろ発信をされておりましたし、そういう意味ではですね、各候補者それぞれネットの活用に注力されていたと思いますが、こういう結果になったということは、もう少しですね、深読みした分析をしていかないと、単なるネット選挙では片付けられないんじゃないかなというふうには感じております。

(記者)

何らか規制のようなものが必要ではないかというような考えはありますでしょうか。

(知事)

いや、もう規制のあり方自体が今の時点で、テクニカルなことも含めてですね、私自身が論評することができないことでもありますので、そこは差し控えたいと思いませんけれども、今、どんどん新しいですね、技術も生まれてくる中で、なかなかその、規制とですね、技術の進歩がたちごっこになってしまうと思いますので、そこはこれから国会の方ですね、どのように判断されるかですね、状況を見ていきたいと思えます。

(幹事社)

その他どうでしょうか。では中日新聞さん。

(記者)

中日新聞です。お願いします。すいません、私もちよつと衆院選絡みでお願いします。消費減税に対するお考えなんですけど、今のお話を聞いてると、時限付きでもすべきではないというお考えでよろしいでしょうか。

(知事)

はい。私は消費税の減税には反対であります。

(記者)

あとですね、当初予算案の成立が、選挙によって遅れていますけども、それによって県への影響は現時点ではなくて、ただ速やかに暫定予算を成立させてほしいということよろしいでしょうか。

(知事)

そうですね。国民生活、いや地方財政にですね、影響が出ないよう、しっかり対応していただきたいと思います。

(記者)

あと、先ほど野党が惨敗した流れで、非常に残念とおっしゃったのは、誰が落選されたことに対して残念なんでしょうか。

(知事)

非常に残念というかですね、やっぱり、かなりこれ、今回の自民党の大勝と、野党が大きく負けたことによって、いびつな格好になってますので、先ほど菅さんのですね、お話ではありませんが、やはり一定程度の、しっかりとした野党があった方がですね、民主的な政権運営が進むと思いますので、そういう点で少し残念だな、ということでもあります。あとは、もう本当に、かつての仲間が、ほぼ皆さん、落ちてしまったというのもですね、非常に残念な、個人的にはですね、そういう感じは受けます。ただ、なかなかもう時代的にもですね、一つの区切り、節目を迎えているのかなという感じもいたします。多分、岡田さんなんかはですね、おそらく次回、出馬をされないんじゃないかなというふうに思いますし、そういう点ではですね、大きな時代の転換点かなというふうにも思います。

(記者)

応援演説に行かれたのは、明石市に西村康稔さんお一人、それ以外は行ってないということで大丈夫ですか？

(知事)

はい。行ってないです。はい。

(幹事社)

その他どうでしょうか。じゃあ日経さんお願いします。

(記者)

日経新聞と申します。ちょっとまた衆院選で追加で伺って恐縮なんですけれども、知事ご自身も実際に野党議員として、民主党として活動されていた時期があったと思うんですが、その時代を振り返りつつでもいいんですけれども、今回ここまで本当に歴史的な大敗を喫したという、特に旧立民中道が歴史的な大敗を喫したとい

うことで、そういったご自身の政治経験から、ここまで負けてしまった理由、あるいは知事が議員だった頃との与党のあり方の違いみたいなのがもしあれば、伺ってよろしいでしょうか？

(知事)

はい。多分今回、高市さんに対するですね、ものすごい追い風が吹いたと。先ほどもお話ししましたが、彼女自身のイメージがですね、今までの、女性ということもありますけれども、永田町の議員、永田町臭さっていうものがですね、なかったということがですね、かなり私は無党派層等に浸透したんじゃないかなというふうに思いますし、私がいた時代からですね、野党もガラッと今、変わってしまってますね。当時、私がいた時の民主党はですね、3分の1くらいはですね、旧自民党の先生方がいて、まさに保守2大政党っていうのをですね、我々目指していた時代でございます。それがもう残念ながら実現をしなかった中で、民主党自体も一旦壊れてですね、いきましたし、ですから随分、昔の私がいた頃とはですね、野党のあり方も変わってきています。ですから、今回、本当に壊滅的な状況からの、今度再スタートとなりますけども、私、決してですね、中道というのは悪いとは思わないですね。一つの対立軸というかですね、新しい政治勢力として、これから中道というのは、どういう理念で、どういう政策を打ち出していくのかということ、しっかり訴求をしていけばですね、ここから新たな党勢の拡大はできると思いますので、そこからしっかり新しいメンバーの皆さんでですね、頑張っていたきたいなというふうには思います。

(記者)

ありがとうございます。関連してもう1点が、各社報道でもありますが、超短期決戦になった結果、そういった高市さんの人気、信任投票ということで、一方で政策論点が非常に見えづらかったという声もあり、実際に高市さんの掲げる責任ある積極財政とかで、マーケットが大きく動いているんですけど、改めて、今回、あえて争点を挙げるとすれば何だったのかということと、新政権というか第二次高市内閣への期待感などがあれば伺ってよろしいでしょうか。

(知事)

そうですね。争点は私も本当に見えにくいというかですね、高市政権を信任するか、信任しないかみたいなのが、まさに争点みたいになってたと思いますし、逆に高市さんの発信力の前にですね、選挙直前に中道ができたわけですけども、選挙の互助会的なですね、イメージしか伝わらなかったということがやっぱり敗因の一つかなというふうに思います。責任ある積極財政というのはまた一つ、よく分からな

いところもありますんで、ただこれから日本の経済を強くしていくためのですね、いろんな、そういう分野への成長投資を加速させるという点ではですね、私も期待したいと思いますし、我々も先ほどの予算の説明でも申し上げましたとおり、新しい、そういう成長投資に向けた基金も造成して参りますので、そこは国と連動して進めていきたいというふうに思っております。

(記者)

分かりました。最後 1 点だけ、金融関係のところでお伺いたいんですけれども、選挙中に為替に関する高市さんの発言があったりですとか、あるいは就任を受けて、今後さらに円安が進むんじゃないかですとか、そういった予想がある中で、静岡県内でいうと、自動車産業が多かったりとか、一方で生活者にとっては円安が物価高に繋がるですとか、色々懸念はあると思うんですけれども、現在の為替水準に関して、あるいは今後のそういった見通しに関して、鈴木知事ご自身としてはどういうふうに考えられているのかなど。

(知事)

私、やっぱりかなりちょっと今は、円安が進みすぎているのではないかなというふうに思います。むしろやっぱり円安によるですね、デメリットの方が、今大きいんじゃないかなと。やっぱりかなり物価上昇がですね、円安によって加速しているというふうに思いますし、やっぱりそうですね、110 円から 120 円ぐらいがですね、一番いい、なんていうかな為替水準ではないかなと思います。感覚的にはですよ。そんなふうには思います。

(幹事社)

その他どうですか。じゃあ NHK さん。

(記者)

NHK です。衆院選の関連で、追加でまたお伺いしたんですけれども、中道ですね、野田さんですね、今回、選挙前に新党を結成して、公明党と一緒に選挙に臨むといったところで勝負に出たかと思うんですけれども、その結果、今回大敗したということで、古くからの盟友関係にあられるということですね、今回の野田さんの政治的な判断ですね、これは知事は、長いお付き合いのある中で、どのように評価されますでしょうか。

(知事)

そうですね。僕も長い付き合いで、ある程度性格等も理解しているつもりですけど

も、あまり自分の方から何か積極的に仕掛けるというタイプではありませんので、今回も多分、内部の何人かの幹部が準備をして、最終的に野田さんが決断をしたということですが、恐らくあのまま分かれていてもですね、かなり立憲、公明両党にとって厳しい状況だったので、そこをフォローし合うということで、ああいう決断に至ったのかなというふうに思います。巷間言われているように、安住さんと馬淵さんがキーマンだというふうにも言われていますけれども、恐らくその辺が動いて、野田さんが決断をされたのだではないかなというふうに思います。

(幹事社)

その他、どうでしょうか。では中日さん。

(記者)

すみません、もう1問お願いします。中日新聞です。

高市首相の言う責任ある積極財政に対しての知事のお考えを伺います。

先ほど、当初予算案が発表されましたけど、予算編成で、強い経済の投資ということで、120億円基金を積んだりもしてありますが、そもそも知事のお考えは積極財政なのか、静岡市の難波市長なんかは、積極投資財政派だと、おっしゃってたりするんですが、一方で知事財政健全化も大変重視されてまして、そのあたりのお考えはいかがでしょう。

(知事)

はい。私は、どちらかという、財政の規律派であります。基本的にはですね。ただ、必要な投資はするという事はもう、もちろん、必要なことだと思ってます。成長戦略のためにはですね、必要ですけども。やっぱりそれは財源の確保を含めて、しっかり、財政規律をですね、守った上でということですし、多分、高市さんも、それは分かってらっしゃると思います。そんなに彼女は、なんていうかな、暴走するタイプではありませんので、しっかり財政的にも、財政規律を完全に無視して、お金を使いまくるなんてことはないと思いますので、そこはそんなに心配はしてないところであります。

(記者)

ちょっと、予算の質問になって恐縮なんですけど、当初予算でこの責任ある積極財政だとか高市首相のお考えなんかを受けて、それを反映した部分っていうのはあるんでしょうか。特にないですか。

(知事)

特に、反映した部分というか、国の方針は方針としてございますので、ある程度のですね、必要な公共投資を確保するとかですね、先ほど言った、基金の造成でありますとか、そういうところは、国の方針を意識をしたというところでもあります。

(記者)

ありがとうございました。

(幹事社)

その他どうでしょうか。毎日さん。

(記者)

毎日です。ちょっとまた似たようなところで申し訳ないんですけども、今回の衆院選ですね、チームみらいを除いたほぼ大半の国政政党はですね、消費減税というのを口にしていて。結果的に自民党が大勝したと。積極財政を掲げた高市氏が大勝したということは、国民の中に、やはりある種のばらまきのような財政をですね、求める民意のようなものがあるようにも感じちゃうんですが、そういう国民のですね、考え方について知事としてどういう思いがあるのか、というのと、積極財政によって県の財政方針が何らか今後影響を受けてくるということはあるというふうにお考えなのかというのを、お聞かせください。

(知事)

国民の皆さんが決してばらまきを望んでいるわけではないというふうに思います。アンケート結果からもですね、消費税の減税をするべきでないという慎重な意見もかなりのパーセンテージでありますので、やっぱり国民の皆さんも将来のですね、財政がどうなっていくかということに対するですね、そちらに対する懸念もしっかりお持ちではないかなというふうに思います。もちろん、今のこの状況をですね、どう経済を回していくかということも大事ですけども、将来の持続可能性というのは非常に重要なことで、私はやっぱり政治家はそこに責任を持つべきだと思いますので、しっかりそこはですね、配慮していただきたいなと思いますし、非常に、責任ある積極財政というのは、先ほども言ったように具体的になんなんだっていうのは、よく分からないわけですね。ただ責任あるというところだけを捉えればですね、きちっと財政規律を守った上で、必要なですね、財政措置をしていくというふうに私自身は解釈をしておりますので、ぜひ、そうした政権運営をしていただきたいなというふうに思います。

(幹事社)

その他どうですか。じゃあこれで記者会見を終わらせていただきます。
ありがとうございました。

(知事)

どうもありがとうございました。